

私にできる ちょっとした したこと

まちには、さまざまな人が暮らしています。
年齢や性別、国籍、障害などにより、不便に感じることは違います。

また、外見からではわかりにくい障害のある人や、妊婦・子育て中の親子が感じる暮らしにくさもあります。

自分とは違う立場の人がいることを知り、お互いを理解し、ゆずりあいや助けあいの行動に移すことで、「もっと自由に、もっと楽しくまちに出かけられる人」は増えていきます。

私にできる“ちょっとしたこと”から、はじめてみましょう。

① ^{こえ}声かけをしよう

- ・困っていそうな人に気がいたら、「何かお手伝いしましょうか」と、気軽に声をかけてみましょう。
- ・「大丈夫です」と言われることもあります。困っていないことがわかれば、一安心。
- ・「声かけは助かる」「申し出を断ることがあっても、声をかけてもらえたのは嬉しい」との声は多いです。

何かお手伝い
しましょうか？



② それしか^{つか}使えない^{ひと}人がいる^きことに気づいて、 ^{こう}行動^{どう}に移^{うつ}そう

- ・「エレベーター」や「だれでもトイレ」を便利に感じる人は多いですが、数に限りがあります。
- ・「それしか使えない人がいる」ことに“気づく”と、だれから使ったら良いかがわかってきます。
- ・ゆずりあいを心がけることで、お互いに気持ちよく過ごすことができます。

どうぞ



③ ^{こま}困っているときは、 ^{ひと}まわりの^{つた}人に伝えよう

- ・困っているとき、体調が悪くなったときは、まわりの人に気軽に手助けを求めましょう。
- ・「必要ならばお手伝いしたい」と思っている人はたくさんいます。しかし、「いつ、どのようにしたらよいかかわからない」という声も多く聞きます。
- ・どんなことが必要かを伝えると、まわりの人も手助けがしやすいです。

なんで
電車が止まっ
ているのですか？

